



荷物を運搬する乗り物から買物、趣味、スポーツなどへ用途の幅を広げてきた自転車。そんな歴史とともに歩み続ける「御園井商会(浜松市中区)」は、4月に創業120年を迎えた国内最古の自転車店だ。戦後の復興期から店を支え、一線を退いた今も大切にしているのは「本物の自転車」、そして「自転車を大事にするお客の思い」と語る。

創業は1897(明治30)年4月。当家はもと浜松城の勤め役だったようですが、明治の廃藩によって浜松の街中に移り住み、米穀商を営んでいました。ところが曾祖父が晩年、婿養子を迎えるに当たって自転車業へ転身することにしたのです。

婿養子の祖父・十七歳(となくぞう)は、自ら競技に参加するなど自転車に強い関心を抱いていました。当時の自転車は一般的な会社員の年収に相当するほど高価で、一般庶民がとて買える代物ではありません。店を始めたのは商売目的ではなく、好奇心に駆られて。まさに道楽です。周囲の目にはよほど物好きな人間に映ったことと思います。既にレース用のスーツも着ていたと聞いていますから。私が生まれたころの昭和初期は既に小売業として店も軌道に

「本物」の自転車追求

国内最古、御園井商会会長 御園井宏昌さん

みそのい・ひろあき 1928年7月、浜松市生まれ。大学卒業後の52年に御園井商会へ入社し、81年に社長就任。県自転車軽自動車商業協同組合の理事長なども歴任した。2006年から現職。88歳。



乗り、少年時代は自転車に囲まれて育ちました。当時も高級品の自転車は一家に一台もなかった時代ですが、荷物を運搬したりする生活の「足」として普及し始めていたのです。店には従業員も大勢働いていました。

しかし、戦争が始まるとみんな召集され、戦地に持って行かれてしまいました。店が静かに

復興に不可欠

1810年代、ドイツの男爵が足で地面を蹴って走る二輪車を発明した。その後フランスなどで改良が加えられ、1880年代の英国で後輪をチェーンで回転させる近代自転車が確立された。空気入りタイヤが使われるようになり、乗り心地や速度が向上した。同時期に日本にも輸入され、まもなく国産化も始まった。



息子の智三郎社長と店の自転車を眺める御園井宏昌会長(右)
6月、浜松市中区のミノイサイクル

なり、子供心にさみしさを感じたのを覚えています。戦争が激しくなったころ、私は学徒動員で名古屋の製鉄会社にいました。戦後、浜松に戻ると空襲で店はなく、辺りはほとんど焼け野原。言葉も出ないほどのショックでした。

疎開先の浜北から浜松に戻った父は2600円で店舗と住宅を購入し、戦後もまもなく店の営業再開に踏み切りました。最初の仕事は焼け残った自転車の修理です。鉄のフレームがそのまま残り、タイヤを直せば使える

ツクでした。疎開先の浜北から浜松に戻った父は2600円で店舗と住宅を購入し、戦後もまもなく店の営業再開に踏み切りました。最初の仕事は焼け残った自転車の修理です。鉄のフレームがそのまま残り、タイヤを直せば使える

最近の自転車は多種多様です。2人乗りのタンデム車や、カラー豊富なファッション性の高い自転車なども求められるようになってきています。そんな変化が激しい業界だからこそ、120年で培った技術と信頼感は大きい。修理も担当小売店として勉強が常に必要なのは間違いありませんが、明治に始まり、親から子へ受け継がれた技は今も店の基礎、基本になっています。道楽で店を営んでいた祖父も、まさか120年続くとは夢にも思わなかったでしょう。時代は変わりましたが、昨年には「自転車活用推進法」が成立し、健康や環境にも良いサイクリングの普及を国も積極的に進めています。趣味の幅もますます広がります。自転車の進化は日進月歩です。

120年前といえば、武家社会に幕を下ろした大政奉還からわずか30年。自転車に乗ったこともない国民がほとんどだったのではないだろうか。御園井商会の設立目的は、商売というよりも「道楽」だったようだ。

戦前戦後は、荷物を運ぶなど生活を支える大切な「足」。その後は主婦が買い物用に乗り、子供が遊び、学生が通学に使うようになり…。やがてレジャーやスポーツとして楽しむ愛好者も増えるなど、自転車業界の歴史は日本経済の成長の流れと重なるらしい。

軽快な自転車は乗る人の心を躍らせる。愛好者は今後さらに増えていこう。先見の明があったかは分からないが、創業当初の「道楽」に世間が少しずつ追いついてきたのかもしれない。

この流れを追い風に、より「本物志向」にこだわりたいと思います。高級自転車を売りたいという意味ではありません。一生大事にされる自転車を提供するため、自転車を大事にしてくれるお客との付き合いを200年、300年と続けていきたい。そんなことを切に願っています。

浜松総局・金野真仁
小糸恵介
月一回掲載します

技術と信頼感

一般向けにも売り出されるようになり。趣味としてサイクリングが広がる。自転車道も造られるなど環境整備にも目が向けられました。低品質で安価な自転車も出始めましたが、自分たちはそれらと一線を画し、「一生もの」の自転車を提供し続けてきました。